

(1 ページ目だけ 2 行空ける)

ファイル名 TH17978 祥雲花子

組番

探究研究論文のためのテンプレート

～研究のおおまかな内容がわかるタイトルを考える～

〇〇講座 17 回生 9 組 78 番 祥雲 花子
祥雲 太郎 三田 次郎 学園 一子

要旨 (Abstract)

研究の要旨を簡潔に (400 字まで) にまとめる。「背景」「意義 (問題点)」「目的」「重要な手法」「重要な結果と考察」「結論」の順に書くとよい。

序論 (Introduction)

「背景」「意義 (問題点)」「目的 (リサーチクエスチョン)」「仮説 (その根拠)」について、文章にまとめる。背景について、専門知識などを加え詳しく記す場合は、「基礎」の項目を分けるとよい。

基礎 (Fundamentals)

論文を理解するうえで必要な専門知識や法則・技法、先行研究について説明する。序論に組み込める程度であれば、この項目は無くてもよい。**文献を引用する場合は、課題研究メソッド P. 26-27 に従い正しく記し、論文末に「引用文献」を正しく記載すること。**

研究手法 (実験、調査、実践など) (Methods)

読者がその研究を再現できるよう、客観的な表現で、できるだけ具体的に書く。

結果・考察 (Results & Discussion)

得られた研究結果とそれをもとにした考察を示す。結果は、グラフや表・図などを利用してわかりやすくまとめる。グラフや表のキャプションのつけ方のルールは次頁を確認すること。個々の結果について、その結果になった理由やその結果から言えることを考えるうる可能性を挙げ吟味する。

結論・展望 (Conclusions)

結論では、結果・考察を踏まえたうえでリサーチクエスチョンの答えや明らかになったことを述べる。**論文において、序論と結論が対応していることが大切である。また、結果・考察で書いたことから論理の飛躍が無いように気を付ける。**展望 (今後の課題) では、研究成果の意義を示し、生まれた新たな問いや解決できなかったことから次の研究へとつなげる。それぞれの内容が豊富な場合は、結論と展望の項目を分けてもよい。

謝辞 (Acknowledgements)

研究を手助けしてくれた外部関係者がいる場合に必要。校内の教員は対象外。

引用文献 (References) または参考文献 (Bibliography)

課題研究メソッド P. 28-29 を参照し、正しく記載すること。記載する文献が、引用なのか参考文献なのかを区別し、どちらかのタイトルを書く。(両方ある場合は、項目を分ける)

課題研究メソッド P.122-128 「研究内容をまとめる、発表する」を読んでおこう。

論文を作成するための確認事項

(論文を書き始めたらこのページは削除してください。)

1 用紙サイズとページ設定

A4版、横書き1段組、1行44文字、1ページ43行。余白は、上下25.4mm、左右19mm。
なお、論文の文字数は、図や表を含めず**本文(要旨～結論・展望)のみで4000字以上**とする。

2 論文の構成・書き方

(1) タイトルと執筆者(グループ研究の場合は共同研究者)

論文のタイトルは**MSゴシック14pt太字**、サブタイトルは12ptで、執筆者氏名はMS明朝10.5ptで書く。執筆者氏名は、○回生▲組◇番あとに全角空白を2つ入れ、苗字と名前の間に全角空白を1つ入れる。共同研究者名を2行目に加える。

(2) 本文の文字サイズとフォント

項目タイトル(大見出し)は11pt太字、**中見出し**は10.5pt太字、**小見出し**は10.5pt、全てMSゴシックとし、本文はすべてMS明朝10.5ptとする。

(3) 構成

テンプレートを基本とするが、文章量の多い論文は、章立ての構成にするのもよい。その場合、原則として次のような通し番号をつける。

第1章・第2章・第3章…またはI、II、III … (11ptゴシック太字)

第1節・第2節・第3節…、または1・2・3 … (10.5ptゴシック太字)

第1項・第2項・第3項…、または(1)・(2)・(3) … (10.5ptゴシックノーマル)

(4) 用字・用語・文体

常用漢字・現代かな遣いとする。ただし、各専門分野における述語・専門用語についてはそれらに従う。文体は「…だ。…である。」調とする。英数字は半角、ただし、項目番号や「1つ」「2つ」などは全角とする。和文の句読点は「、。」で、英文は半角の「,.」でそろえる。

3 図・表

図や表は本文中の適切な位置に挿入する。図1、図2・・・、表1、表2・・・のように、それぞれ通し番号をつけ、番号とキャプションを10.5ptのMSゴシック体で付けること。その際、図のキャプションは下に、表は上につける。また、表に引用がある場合は、表の下に明示する。

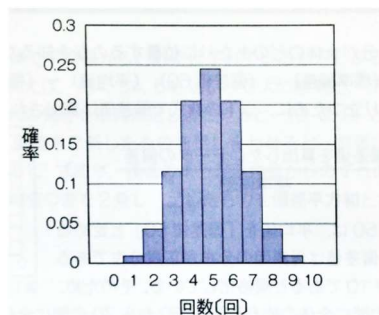


図2. コイントスを10回投げた際に表が出る回数とその確率

表1. 各母集団に対応する許容誤差・信頼レベルに応じた必要サンプル数

母集団	許容誤差			信頼レベル		
	10%	5%	1%	90%	95%	99%
100	50	80	99	74	80	88
500	81	218	476	176	218	286
1,000	88	278	906	215	278	400
10,000	96	370	4,900	264	370	623
100,000	96	383	8,763	270	383	660
1,000,000～	97	384	9,513	271	384	664

アンケート作成サイト Survey Monkey「アンケートのサンプルサイズ」
(<https://jp.surveymonkey.com/mp/sample-size/>)より作成

4 論文の保存・提出

テンプレートの場所

提示

> 17回生

> SS探究Ⅲ

各自でテンプレートを開き、名前を付けて、**各自のフォルダに保存**する。ファイル名は、氏名の前に半角で、TH(論文thesis)と回生と組と番を入れる。**17回生9組78番なら「TH17978祥雲花子」とする**。**完成した原稿の提出は、「提出」フォルダ**を使用するが、具体的な提出先や論文執筆中の教員とのやりとりの方法は、担当教員の指示に従うこと。また、フォルダの特性、ファイルの管理については、祥雲館高校でのルールを厳守すること。

論文提出締切 6月25日(木)17:00 厳守

